

2023年の夏休み★ こども映画館

KIDS★CINEMA

映画の上映とお話+映写室訪問(抽選当選者のみ)

7月28日金 | 29日土 | 8月4日金 | 5日土 13時30分スタート!
(13時開場)

国立映画アーカイブ 小ホール(地下1階) 定員:各回151名

料金(当日お支払い)

中学生以下	無料
一般	520円
高校・大学生・65歳以上	310円

*当日、証明できるものを必ずご提示ください。

申込
方法

参加は事前申込制です

[申込フォームのみ]

6月21日[水] 16時より受付開始

国立映画アーカイブホームページ内のこども映画館申込フォームよりお申込ください。受付票の送付をもって受付完了となります。各回、定員に達し次第しめきります。

www.nfaj.go.jp/learn/kids/

内容に関してのお問い合わせ:電話03-3561-0823

参加をご希望の皆さまへのお願い

★こども(中学生以下)の引率・付添ではない高校生以上の方のお申込はお断りしております。

★観覧券の発券・入場は、開映の30分前から、受付票の受付番号順に行います。受付票の提示がない場合はご入場いただけませんのでご注意ください。

★障害者手帳をお持ちの方(付添者は原則1名まで)は無料です。証明できるものをご提示ください。

★お申込時にご入力いただいた個人情報、「こども映画館」に関するご案内のみに利用し、第三者への提供は行いません。

★ご参加の方は、終了後に展示室を無料でご覧いただけます。

*展示室では当日、こどもファストトラック(優先入場)を実施しています。

デザイン:TAICHI ABE DESIGN INC. イラスト:楠田たてり

みんなで一緒に、大きなスクリーンで映画を観よう!!

7月28日 金

13:30-14:45



『小さな五つのお話』

こころが育つ物語のアニメーション

日本の童話作家、宮沢賢治の『セロひきのゴースト』は、楽団でセロ[チェロ]を弾く係のゴーストと動物たちのふれあいのお話。浜田広介による『泣いた赤おに』は、人間と仲良くなりたと思うやさしいこころを持った赤おにのストーリー。“アニメーションの神様”の一人として知られる岡本忠成監督が作った『小さな五つのお話』は、“おしれ”“どろんご”“かくれんぼ”など、毎日のできごとがいっぱい!

『セロひきのゴースト』(1963年)
日本/監督:神保まさえ/19分/カラー

『赤い鳥のこころ 日本名作童話シリーズ4 泣いた赤おに』(1979年)
日本/監督:楠部大吉郎/24分/カラー

『小さな五つのお話』(1974年)
日本/監督:岡本忠成/20分/カラー

7月29日 土

13:30-15:45



『お引越し』※カラー作品です

夏が、こどもも大人も成長させる

監督は相米慎二。ひこ・田中の児童文学を原作に、こどもの視点で家族の姿を描きます。主演の田畑智子は当時11才で、実際に夏休みを利用して撮影されました。俳優や自然風景などの魅力にあふれた作品です。

『お引越し』(1993年)

日本/監督:相米慎二/124分/カラー
あたし、漆場レンコ、6年生。最近とうさんとかあさんが仲よくなって、お家が二つになりそうなんやけど、二人ともうちの言うことを聞いてくれへん。なあ、なんで3人やったらダメなん? もう知らん! うちが出ていく!

8月4日 金

13:30-15:00



『黒旋風』

主人公は馬! 馬と人間の友情を描く、アクション満載の物語

主人公を演じるのは数々の西部劇に主演した名馬レックス。砂煙の舞う荒野を舞台に、偶然出会った馬と人間の友情と、スピード感あふれるアクションをお楽しみください。

『黒旋風』(1925年)
アメリカ/監督:フレッド・ジャックマン/74分/白黒(染色)/原題:Black Cyclone!
野生の馬のレックスは、愛する馬・レディを、ひきょうものの馬・キラーから取り返そうと大奮闘!

8月5日 土

13:30-15:15



『舊劇 渋川伴五郎 霧島山蜘蛛退治の場』

日本初の映画スター “目玉の松ちゃん” 映画をとことん楽しもう!

100年前の映画スター尾上松之助(1875~1926)の映画には、歌舞伎の面白さと映画的なトリックやアクションの魅力が盛りだくさん。弁士たち(3人!)の活気あふれる掛け合い上映でご堪能ください。

『舊劇 渋川伴五郎 霧島山蜘蛛退治の場』(1922年)
日本/監督:築山光吉/85分/白黒(染調色)
しほうじゆつか すもろ つちくも 柔術家の渋川伴五郎が、相撲や土蜘蛛退治で活躍し、父の仇討ちに向かう。

8月4日、5日は活弁・演奏付きで映画が観られるよ



尾田直彪 (活動写真弁士) [4日・5日]

2000年、熊本県生まれ。東京学芸大学教育学部卒。澤登翠門下。澤登翠の活弁に魅了され、弁士を志す。2021年10月、都内で60年以上続く上映会「無声映画鑑賞会」でデビュー。以降、同会や「カブツ映画祭」等の都内上映会、地元九州での公演にも出演。現在唯一の20代・最も若い活動弁士として活躍している。



山内菜々子 (活動写真弁士) [5日]

栃木県那須塩原市出身。日本大学芸術学部映画学科卒。2010年澤登翠一門に入門。2013年「第659回無声映画鑑賞会」で弁士デビュー後、無声映画鑑賞会をはじめ、地元の「那須温泉映画祭」など出演多数。2021年度には集英社少女漫画アプリ「マンガMee」にて連載された「RAY-麗-大正キネマ物語」(作:ナスノムカ)の監修協力を務めた。



樽澤賢一 (活動写真弁士) [5日]

澤登翠門下。2020年6月、第740回無声映画鑑賞会でデビュー。無声映画鑑賞会、蛙の会発表会、新宿東口映画祭などに出演。また声優として外国映画の吹替、キネコ国際映画祭で活動している。その他に、下北沢映画祭の授賞式のMCを2021年から担当している。



湯浅ジョウイチ (作曲・編曲、ギター・三味線) [4日・5日]

1987年、東京国際映画祭でD・W・グリフィスの『国民の創生』の楽士を担当後、無声映画音楽の復元や作・編曲等を行い、和洋楽団カラード・モントーンを結成。作・編曲・指揮の他、ギターや三味線も演奏する。



鈴木真紀子 (フルート) [4日・5日]

桐朋学園大学音楽学部卒。フルートを峰岸壮一氏に師事。和洋楽団カラード・モントーンの主要メンバー、芹洋子のアコースティックバンドメンバーとして活動。東洋英和女学院、順天堂大学交響楽団でフルート指導にあたる。

活弁とは?

無声映画の時代に日本の映画館で行われていた、弁士による映画説明のことです。当時はそれぞれの劇場が弁士を雇い、その評判によって劇場の人気が左右されるほど大切な役割を担っていました。



国立映画アーカイブ

〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

交通: ●東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分

●都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分

●東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分

●JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル050-5541-8600

NFAJホームページ: www.nfaj.go.jp

長瀬映像文化財団

国立映画アーカイブは長瀬映像文化財団の支援を受けています。



保護者・指導教員・引率者の皆様へ

「こども映画館」は、中学生以下を対象とした国立映画アーカイブの映画イベントで、夏休みの期間に開催します。「こども映画館」は次のような目的で企画されています。

★映画という偉大な文化芸術遺産の素晴らしさ、楽しさを知ってもらう。

★テレビ等の家庭内視聴では得られない、大きなスクリーンによる本物の映画(フィルム)を楽しむ機会を提供する。

★優れた映画作品の鑑賞を通して、豊かな情操と高い映像理解能力(リテラシー)を育む。

映画館に集まり、みんなが暗闇のなかで集中して大きなスクリーンを見つめ、泣き、笑い、緊張し、興奮し、感動する——かつてはごく当たり前であった、こうした映画の原風景の素晴らしさを、今日のこどもたちにも味わってほしいと思います。きっと良い思い出になることでしょう。